

| | | |
|---|---|--|
| 梶田 | 川本 | 梶田 |
| <p>39年、オリンピックの年でした。新幹線が開通して日本中が沸き返っていたころです。</p> | <p>な働きをしたそうです。</p> <p>そうですね、「ウルトラQ」の製作は昭和</p> | <p>「ウルトラQ」が製作されてから40年以上も経つのにこんなにたくさんの方に愛されて監督冥利に尽きるといふものですね。この「ウルトラQ」が今日でもステータスを保ち得たのはファンのみなさんの強い応援があればこそと改めて認識しました。</p> <p>今改めて観直すとちよっともの足りない点もあるように感じますが、最初の方に作った作品ということでご容赦願います（笑）。</p> <p>円谷英二さんは東宝で「ゴジラ」54 監督：本多猪四郎をはじめとする怪獣映画や「太平洋の嵐」(60 監督：松林宗恵)などの戦争映画、「妖星ゴラス」(62 監督：本多猪四郎)「宇宙大戦争」(59 監督：本多猪四郎)などのSF作品を作られていて、いよいよ円谷プロダクションとしてテレビ作品を作られるとなった時、梶田監督が重要な働きをしたそうです。</p> |

そんな年の4月に会社に呼び出されて「円谷プロに行ってくれないか。円谷さんがテレビ映画を作りたいって言っているんだ」ということで私は東宝から円谷プロに出向ということになりました。それが昭和39年の4月です。

まだ「円谷プロダクション」って言われてなくて「円谷映画研究所」と言っていました。若い人たちが一所懸命に特撮の勉強をしていました。そんな中に行ったんですが、まだ映画を作る体制は出来てなくて私もびっくりしました。「これで映画が出来るんだらうか」という感じで。

その若い人の中に円谷さんのところで書生みたいにしていた金城哲夫くんがいました。彼は円谷さんが非常に信用し愛しこの人間は、と思って一生懸命力を入れていた青年でした。その金城君が玉川学園に通いながら脚本の勉強をして脚本を書いていました。

そしてフジテレビと折衝してテレビ映画を作ろうと言うことになり、一番最初は「Woo」の企画が始まった頃に私は東宝から出向で来ました。その「Woo」はうまく

〈上映会データ〉
「ウルトラQ」
～「マンモスフラワー」「206便消滅す」「地底超特急西へ」「2020年の挑戦」
1966年 TBS 監督 梶田興治、飯島敏宏
出演 佐原健二 西條康彦 桜井浩子

2009年7月18日（土）
15:00～ 上映開始
17:00～ トークイベント
ゲスト 梶田興治監督
19:00～ ゲストとの懇親会

映画&トークイベント料金 2000円

〈イントロダクション〉
円谷プロテレビシリーズ第1作「ウルトラQ」。言わずと知れた特撮テレビ映画の名作中の名作。この作品の脚本が作られ始めたのが1964年。今年は製作開始より数えて45年になります。これを記念しグリソムギャングではその代表作を4本上映し、第1作を監督した梶田興治さんに当時の思い出を語っていただきます。